



麻布未来写真館

区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会

令和5年度(2023年度)活動報告

港区麻布地区総合支所



区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会

令和 5 年度（2023 年度）活動報告

はじめに

本活動報告は、麻布地区総合支所の地域事業「麻布未来写真館」において、区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会が、これまでに取り組んだ活動の記録です。

「ファインダーをとおして、未来に向けた新しい麻布を発信していきます。」

写真には写された記録だけではなく、多くの人々にとっての体験の「記憶」が含まれた、かけがえのない価値が備わっています。

本活動報告に掲載された写真は、新しいものも古いものも全て、ファインダーをとおして「麻布」をめぐる様々な人々の記憶を未来につなぐ貴重な記録です。

麻布の未来に向け、麻布地区総合支所は、多くの方々に記録と記憶の価値を伝え、区民の皆さんの地域への共感や愛着をより一層高めてもらえるよう取り組んでまいります。

活動を進めるにあたり、様々なかたちでご尽力をいただきました区民の皆さんや関係者の方々に、心から御礼を申し上げます。

令和 6 年 3 月 港区麻布地区総合支所協働推進課

《 目 次 》

はじめに

I	分科会活動の概要	01
	「麻布未来写真館」とは	01
	分科会活動記録（令和 5 年度）	02
II	分科会メンバー作成パネルの紹介	05
	パネルの作成	05
III	これまでの活動を振り返って	19
	メンバーのことば	19



「麻布未来写真館」とは

「麻布未来写真館」事業実施の背景

麻布地区は、区内にある大使館の半数以上が集中し、外資系企業も多く立地するなど、国際的な「まち」です。また、外国人が多く利用する六本木の繁華街は、麻布の「まち」の国際的な魅力を高めることに貢献しています。

麻布には由緒ある寺院や、毛利庭園のように大名屋敷の面影を今に残す庭園や、小説や落語に登場する坂や町名も多く残るなど歴史と文化の「まち」でもあります。一方、アークヒルズ、泉ガーデンや六本木ヒルズ等に代表されるように、大規模な街づくりによって「まち」が大きく変化しています。

こうした大規模な街づくりにより「まち」が変化していくなかで、貴重な歴史的・文化的資産を次世代へ伝えていくとともに、麻布に暮らす多くの人々に麻布の歴史や文化をもっと知ってもらい、麻布の「まち」をより身近に感じ、愛着を感じてもらうための取組が重要です。

事業の趣旨

麻布地区総合支所では、平成 21 年度から区民や企業、大学等と協働し、麻布地区の昔の写真などを収集するとともに、定点写真を撮影し、麻布のまちの変化を保存する取組として「麻布未来写真館」事業を実施しています。

当事業は、麻布地区の資料収集・保存していくことを通じて、麻布地区に暮らす人々にとって身近な歴史・文化資源を保全・継承するとともに、より一層の活用を目的としています。同時に、「まち」の歴史や文化をより多くの皆様に知っていただき、麻布地区への愛着を深めていただく一助となることを目指しています。

区民との協働事業

広報紙等の募集を通じて集まった「区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会」のメンバーとともに、収集した資料等を活用したパネル作成に向けたワーキング、まち歩きによる「まち」の変化の撮影やこれまでに作成したパネル等の発信、事業の周知に向けた検討等を実施しました。

また、分科会メンバーが作成したパネルは、大学や企業等の協力のもと、「パネル展（常設展示・企画展示）」により広く公開しています。

区民参画組織「麻布を語る会」とは

麻布地区総合支所では、平成 18 年に新たな総合支所制度を導入して以来、地域に住み、働き、学び、活動する多くの人々が区政に参加し、地区の課題の解決策や将来について、ともに議論し、協働によって目標を達成していく「参画」と「協働」の取組に力を入れてきました。

「麻布を語る会」とは、区民の参画と協働により、麻布地区のめざすまちの姿「誰もが主役になれる参画と協働のまち ～未来につなぐニューノーマルを創造する“AZABU”～」の実現に向け、区民主体の検討や取組を進めるために設置された麻布地区の区民参画組織です。

メンバーは、麻布地区内に居住、勤務、在学、または麻布地区のために活動したい公募区民等によって構成され、令和 6 年 3 月現在、「麻布未来写真館」・「麻布地区政策」・「地域情報の発信」の 3 つのテーマに分かれて分科会を設置し、それぞれ活発な活動を行っています。



分科会活動記録（令和 5 年度）

分科会の実施

「麻布未来写真館」の事業推進に当たって、令和 5 年度は、分科会を全 12 回開催（うち 2 回は、「まち歩き（撮影）」を実施）、あわせてワーキングの実施、個別オンラインでのやり取りも積極的に活用し、メンバー間、メンバーと事務局間による意見交換やパネル作成に向けた検討等を行いました。



オンラインでの参加も可能な分科会運営を実施



パネル作成に向けた画像選定作業

令和 5 年	4 月 20 日（木）	プレ分科会：自己紹介、情報交換等
	5 月 17 日（水）	第 1 回分科会：令和 4 年度の活動等について
	6 月 10 日（土）	第 2 回分科会：まち歩き（撮影）A 日程
	6 月 18 日（日）	第 2 回分科会：まち歩き（撮影）B 日程
	6 月 22 日（木）	第 3 回分科会：撮影レビュー、令和 5 年度の活動等について
	7 月 20 日（木）	第 4 回分科会：令和 5 年度に作成するパネル等について
	8 月 31 日（木）	第 5 回分科会：パネル作成に向けた検討・今後の作業確認等
	9 月 26 日（火）	第 6 回分科会：パネル作成に向けた検討等
	10 月 24 日（火）	第 7 回分科会：パネル作成に向けた検討等
	11 月 21 日（火）	第 8 回分科会：パネル作成、まち歩き（撮影）等について
	12 月 16 日（土）	第 9 回分科会：まち歩き（撮影）A 日程
	12 月 16 日（土）	第 9 回分科会：まち歩き（撮影）B 日程
令和 6 年	1 月 16 日（火）	第 10 回分科会：撮影レビュー、パネル作成等について
	2 月 6 日（火）	第 11 回分科会：活動報告、パネル作成等について
	3 月 12 日（火）	第 12 回分科会：活動報告、パネル作成等について

区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会 メンバー

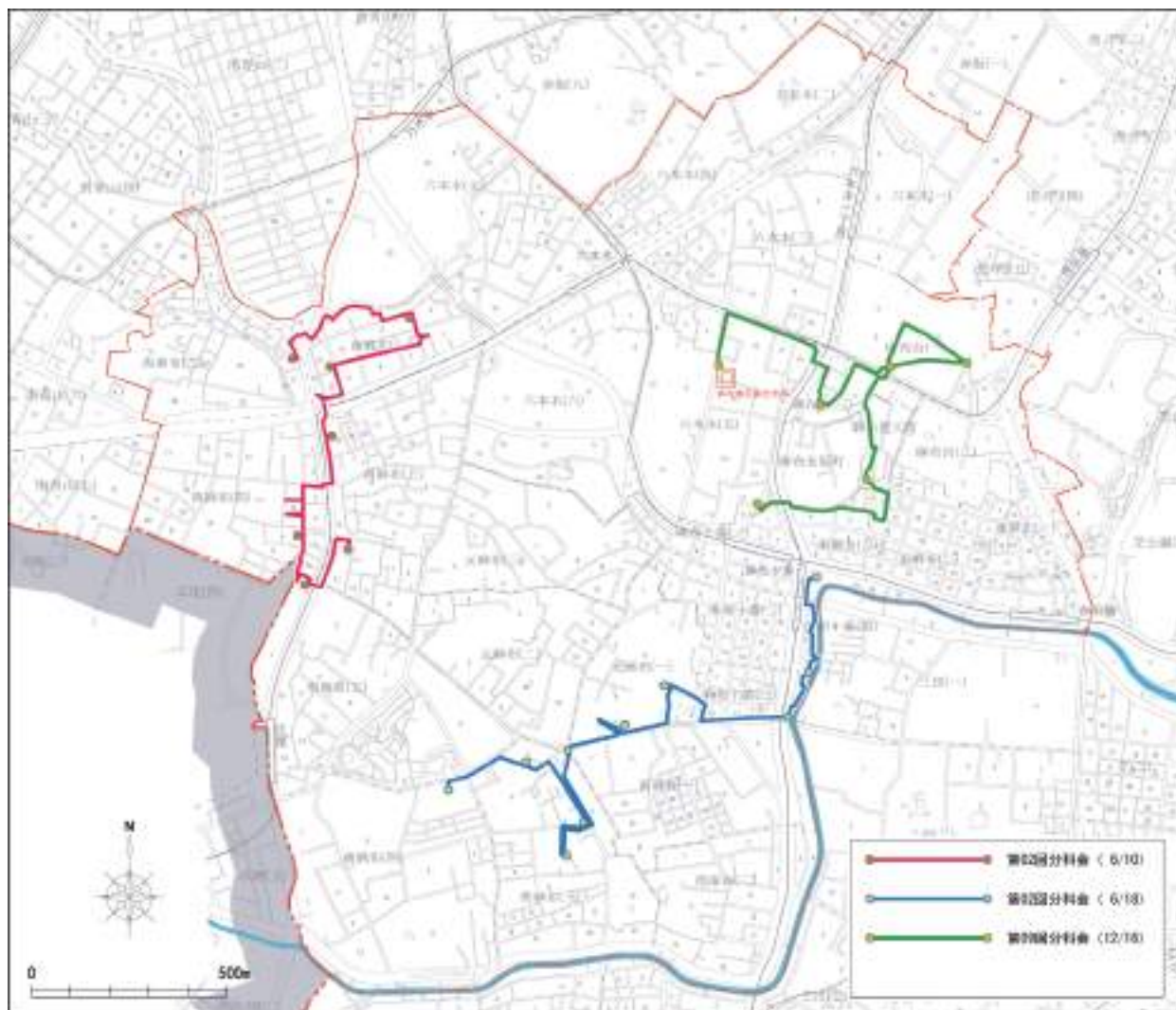
荒澤 経子、石井 諒太、石橋 千恵子、入江 誠 [副座長]、及川 廣子、岡崎 純子、近藤 敏康 [座長]、
佐藤 正子、椿 由美子、露木 尚文、野村 知義、水野 禮子、宮崎 則行 [副座長]、武藤 佳菜、八巻 綾子、
吉川 一郎、街いく探検隊 (若松 保治)

50 音順（令和 6 年 3 月 1 日現在）



まち歩き（撮影）の実施

令和5年度の分科会活動では、「麻布未来写真館」事業で麻布のまちの変化を保存する取組として行っている「まち歩き（撮影）」を下図の撮影ルートにより計3回実施しました。



資料の収集と情報発信

「麻布未来写真館」では、地域事業等での活用、区民・観光客等への情報提供を目的に、区民等の皆さまから提供いただいた写真・資料について、記録・保存を行っています。また、これまでに作成したパネルの貸出し・資料募集についての周知、SNS等を活用したメンバーの自主的な情報発信についても積極的に行っています。

地域事業との連携等

麻布地区総合支所が独自に実施する取組（地域事業）との連携については、令和5年度も継続して「ちょこっと立ち寄りカフェ」等を行いました。その他、区内学校等とも積極的に交流を深め、連携事業等を推進しています。



パネル展の開催

「麻布未来写真館」事業の一環として、分科会活動の中で検討したテーマに基づき、メンバーが作成したパネルを展示する「パネル展」を令和5年度は、延べ8回開催しました。

また、常設の展示として、都立中央図書館、有栖川宮記念公園管理事務所の掲示スペース、港区麻布地区総合支所2階の通路及び麻布区民協働スペースロビーでの展示を行っています。

区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会でのこれまでの活動①



これまで、区役所ロビーや麻布地区総合支所、各いきいきプラザ、フジフィルムスクエア等での企画展示を行ってきました。

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介

パネルの作成

パネルの作成に当たっては、「麻布未来写真館」事業で麻布のまちの変化を保存する取組として行っている「まち歩き（撮影）」での写真や、パネル作成のために個別撮影した写真、また区民等から提供していただいた写真や資料を活用しました。

なお、「分科会メンバー作成パネルの紹介」には、分科会活動で、関係機関などの協力のもと、写真・文献等の資料により、分科会メンバーが独自に調査し、作成したパネルの内容を掲載しています。

六本木五丁目周辺 麻布地区総合支所前	06
六本木交差点付近	07
空から見た麻布台	08
終戦直後の六本木	09
麻布と浮世絵 古川の対岸にあった「水天宮」①	10
麻布と浮世絵 古川の対岸にあった「水天宮」②	11
未来に残したい注意書き ー昭和から令和までー	12
まちもじフォント今昔	13
麻布十番のまつり	14
麻布で踊り、麻布でみこし	15
有栖川宮記念公園の生物採取・調査	16
有栖川宮記念公園の池は、令和4年(2022年)11月から浚渫(池の堆積物の除去)工事を行なっていたが、それにともなって池の生物調査が、令和4年(2022年)9月から5回実施された。 令和5年(2023年)2月、研究者、ボランティアによる池の水を抜いての生物採取・調査が行われた。 採取された外来種は駆除され、在来種は池に戻された。全長144cmのヨーロツパオオナマズが見つかったことが話題になったが、引き取り先に搬出される前に亡くなったことは残念であった。	
ちょこっと立ち寄りカフェ×麻布未来写真館	17

写真について

これまで作成した多くのパネルで新旧の比較を行っていますが、必ずしも同一視点からの撮影にはなっていません。また、変化の様子をとらえるために、あえて周辺のまち並みも写してイメージの伝わる構図としました。

なお、写真に写っている個人や所有(車等)の特定を避けるため、さらに、撮影条件や画像の経年劣化等を補うために軽微な画像加工を一部行っています。

六本木五丁目周辺 麻布地区総合支所前

平成から令和の麻布／令和5年（2023年）の麻布



平成21年(2009年)：六本木五丁目 麻布地区総合支所前付近

外苑通りから六本木五丁目交差点を見開いたところ、麻布地区総合支所がある。この建物は、江戸から明治・大正・昭和にかけての歴史文化に関わる人びとの集まりや活動が盛んだったため、歴史を重んじる古いレンガの壁が続いている。



平成21年(2009年)：六本木五丁目 麻布地区総合支所前付近



令和5年(2023年)：六本木五丁目 麻布地区総合支所前付近

麻布地区総合支所前から外苑通り方面を望む。右半には、麻布保育園等複合施設が建設され、左半には上の写真にはなかった横断歩道ができています。



令和5年(2023年)：六本木五丁目 麻布地区総合支所前付近(上下2枚とも)

左半に見えるレンガの壁は、人間よりも高い部分がより古いものにつくり替えられている。その手前には電柱の立寄は変わっていないが、下の写真ではちいばすのバス停がある。その裏、ロアビルの上には、六本木三丁目の集合住宅がそびえ立っている。

平成21年(2009年)当時、ちいばすの建物が始まったばかりの時代。バス停は、現在よりも奥の坂道に位置していたが、試行錯誤の末、現在の位置になった。あわせて、駐車場の位置が決められている。また、上の写真には無い自転車走行レーンが下の写真では追加されている。上の平成21年(2009年)の写真で、タクシーに使われている、トヨタクラウンコンフォートは、令和に入るとほとんど見られなくなり、黒いジャパンタクシーに代わっている。



平成21年(2009年)：六本木五丁目周辺



令和5年(2023年)：六本木五丁目周辺

外苑通りに向かって、麻布地区総合支所前から左半の道に入ると、これまでは裏通りにあったトヨタレンタカーが奥に移転した。また、駐車場の真ん中にあった高層マンションの建物はなくなり、六本木五丁目西地区の再開発に向けて変化もつつある。

六本木交差点付近

平成から令和の麻布／令和5年（2023年）の麻布



平成21年（2009年）：六本木交差点

建築アランドが入っているビルが建て替え中だった平成21年（2009年）。当時から安全・安心な六本木をさがし、麻布警察署、麻布地区総合支所や麻布駅と、地元町会・自治会、商工会等との協働による各種取組が行われていた。現在もその活動が続き、より安心・安全なまちになっている。

下の令和4年（2022年）の写真では、横断歩道が自転車禁断続のない新しいものに更新されている。また、電線がなくなり、防犯カメラが多く設置されていることもわかる。また、丸の口のロゴのある光正ビル、六本木マルシェがなくなっている。



平成21年（2009年）：六本木通り（六本木交差点付近）



令和5年（2023年）：六本木通り（六本木交差点付近）

地下鉄の出入り口がなくなり、施設も整備され、放課自転車が増えている。多くのテナントは入れ替わっている。



令和5年（2023年）：六本木交差点

空から見た麻布台

昭和・平成から令和の麻布／令和4年（2022年）、令和5年（2023年）の麻布

Ⅱ
分科会メンバー作成パネルの紹介



昭和49年（1974年）11月10日：麻布台（旧郵政省南布宗蔵） 東京タワー展望台よりの後編



平成27年（2015年）11月：東京タワー展望台からの景色



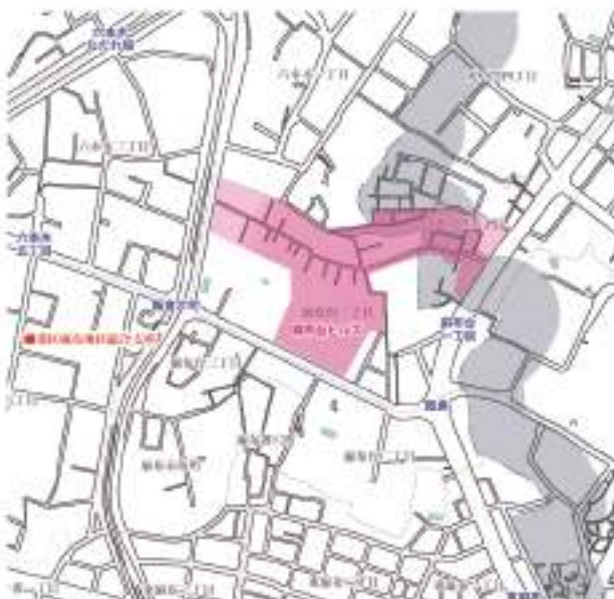
令和4年（2022年）11月：東京タワー展望台からの景色

日本郵政グループ建築ビルは、旧逓信省野金屋庁舎として昭和5年（1930年）に完成し、令和元年（2019年）麻布台ヒルズの開発のために解体されるまで、麻布台の地にあった風格のあるどっしりとした建物であった。何層かの所有者の変遷を経たが、「麻布郵便局」として地域に根ざっていた。

古い写真について写真提供：麻川剛一氏



令和5年（2023年）12月：東京タワー展望台からの景色



終戦直後の六本木

昭和から令和の麻布／令和5年（2023年）の麻布

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



六本木の戦災復興土地地区画整地を記録した書籍に「戦後の六本木（昭和22年当時）」と題して掲載された一枚。木製の煙突のあるビルは、戦前の形状等から旧麻布郵便局と思われる。その左半分のビルは麻布小学校であろうか。二層の建物の内、数軒から撮影場所を推定し、戦後の状況地図に重ねたところ、そこには全壊を避けた3階建ての「藤田病院」がありました。現在の六本木スタジオが建つあたりです。戦前3階からの撮影でしょうか。

左下に写る住宅群は、戦災復興に東京都市住宅建設が復興した被災者用の高層住宅と思われる。現在の麻布区界隈から約1kmあたり、70棟ほど建設されたとの記録があります。当時の記録によると、当時の記録によれば「同じ価格の木造平屋が並び、路地のところどころに共同水道が通った」との事。路で野菜を育てたり、近所の雑草（五節草）が繁殖を再開する図はドラマチックに入ったこともあったそうですが、昭和26年（1951年）には土地地区画整地により道路も建物も新しくなり、この写真の景色はわずか数年で消えました。

資料：「六本木」(麻布第一国土地地区画整地組合、1954年)



戦後の三河台町 撮影場所と撮影方向



六本木スタジオから麻布台（麻布セビルス）着工前



令和5年（2023年）三河台付近から麻布台方面（左右とも）撮影協力：ザ・リッツ・カールトン東京。現在の三河台付近から麻布台方面は、高層ビルが建ち並び、ちやうとした高さでは一瞬は見えません。唯一、東京ミッドタウンの高層ビルから見えるのではないかとメンバーの意見を挙げ、ザ・リッツ・カールトン東京さんにご協力を得て、45階のレストラックから麻布台方面をパノラマ撮影させて頂きました。撮影は2月の日差しが強い正午前。夏より空気が澄み、日差しが強く、窓ガラスに反射した光が映り込んでいます。

土地柄が、建物の配置は戦前とあまり変わらないとも言えますが、旧麻布郵便局は、麻布台と山手のタワーに姿を消え、大きくまちが変化したことがわかります。写真手前には麻布郵便局も見えます。



麻布と浮世絵 古川の対岸にあった「水天宮」①

江戸時代と令和の麻布

東京の水天宮といえば安産の神様として知られているが、現在の地、日本橋蛸殻町に遷座したのは明治5年(1872年)のこと。

江戸時代には、芝赤羽にあった久留米藩有馬家上屋敷の広大な敷地の一角にまつられていたという。

そこで本パネルでは、当時の風物が描かれている浮世絵と古地図を手がかりに、古川を挟んで麻布の対岸の地にあった水天宮の痕跡をたどってみた。

「情けありまの水天宮」

江戸の水天宮は文政元年(1818年)、第9代藩主有馬頼徳が参勤交代の折に、芝赤羽にあった上屋敷内に国元久留米にある水天宮の分社を建てたのが始まりだという。その後、たいそうご利益があると人づてに評判が広まり、裾越に賽銭を投げ入れる人が後を絶たないほどの信仰を集めるようになった。そこで有馬家は毎月5日の縁日にかぎって屋敷の門を開き、人びとの参拝を許したことから、有馬家の温情と水天宮をかけて、「情けありまの水天宮」という洒落が江戸っ子たちの間で流行ったと伝えられている。



「江戸名所 赤羽水天宮」絵師：歌川広重
港区立歴史資料館蔵
画面右下は赤羽橋、古川の向こう岸に長い橋に囲まれた有馬家上屋敷、小高い山の上には火の貝橋、高田右衛門、草の中からはわづかにみえく水天宮の塔、基町から火割し燈を燈した有馬家では、上屋敷に火の見櫓を組んだことから、水天宮とともに名物として市民の人気を博したという。



令和6年(2024年)1月：国立園四丁目側から赤羽橋を望む
見えているのは有馬家上屋敷の長い橋ならぬ、古川の上を走る高速道路、江戸時代、水天宮の縁日である5日には、多くの参拝者が橋を往来したのだろう。



「江戸名所 赤羽水天宮」絵師：歌川広重
港区立歴史資料館蔵
手前の橋が中之橋、流れの先に覆かれた高い橋が赤羽橋、向こう岸、有馬家上屋敷の敷地の右端に水天宮の塔が、小高い山の上に火の見櫓が描かれている。
現在の麻布二丁目の南端駅あたりからの眺めであろうか。



令和6年(2024年)1月：麻布二丁目から中之橋を望む
「麻布いっすど通り」の入り口付近から大通りの向こう、古川にかかる中之橋(写真中央)を望む。
江戸時代には、このあたりからも水天宮の塔が見えていたのではないだろうか。

麻布と浮世絵 古川の対岸にあった「水天宮」②

江戸時代と令和の麻布

かつて水天宮の社があった場所

有馬家上屋敷跡を現代に置き換えると港区三田一丁目界隈。済生会中央病院、国際医療福祉大学三田病院、三田国際ビル、都立三田高校、区立赤羽小学校などを含む、2万5000坪に及ぶ広さであったと伝えられている。本パネルの下段に、有馬家上屋敷の所在がわかる古地図と、現在の地図を並べてみた。

パネル①で取り上げた2点の浮世絵では、いずれも水天宮の幟が有馬家上屋敷の敷地の右端(西北端)に描かれている。とくに2枚目の浮世絵(パネル①下段)では、中之橋を渡ってさほど離れていない場所に幟が見えていることが確認できる。それらを手がかりに、かつて水天宮の社が建っていたと思われる場所を推測し、訪ねてみた。



令和6年(2024年)1月・上屋敷跡、西北端の地のいす
古川をはさんで、森町街から中之橋の向こうを望む。水天宮がまつられていたと思われる有馬堂
上屋敷跡の西北端にある場所には、現在、近未来的な外観のオフィスビルが建っている(写真
参照)



令和6年(2024年)11月:水天宮はいずこに
左の写真と同じビルをさらに近づいて撮影。この建物の敷地の一角に、かつて水天宮があったものと思われる。



令和6年(2024年)11月:中之橋の欄柱
欄柱には、有馬家上屋敷に掛けられていたもう一つの名物、大の足増のデザインが施されている。



元和6年(1624年)1月:元神明宮
 オフィスビルの南側に鎮座する元神明宮。明治4年(1871年)
 には有栖郡が青山に移転する際、同社にも水天宮の分霊をま
 つり、今日に至るという。



令和6年(2024年)1月:榎木版からの眺望
有馬車上撮影の区間を終え、六本木方面に向かうと榎木版(麻布台三丁目) 街が上がって
いる。ふと都の方を見やると、件のアスピルビルの姿があった(写真中央)。江戸時代には、
あるいはこの境から木更津の川が流れていたかもしれない。そんなことを考えた。



『第三回』本稿が検討範囲（以下）を東京地方中央図書館所蔵

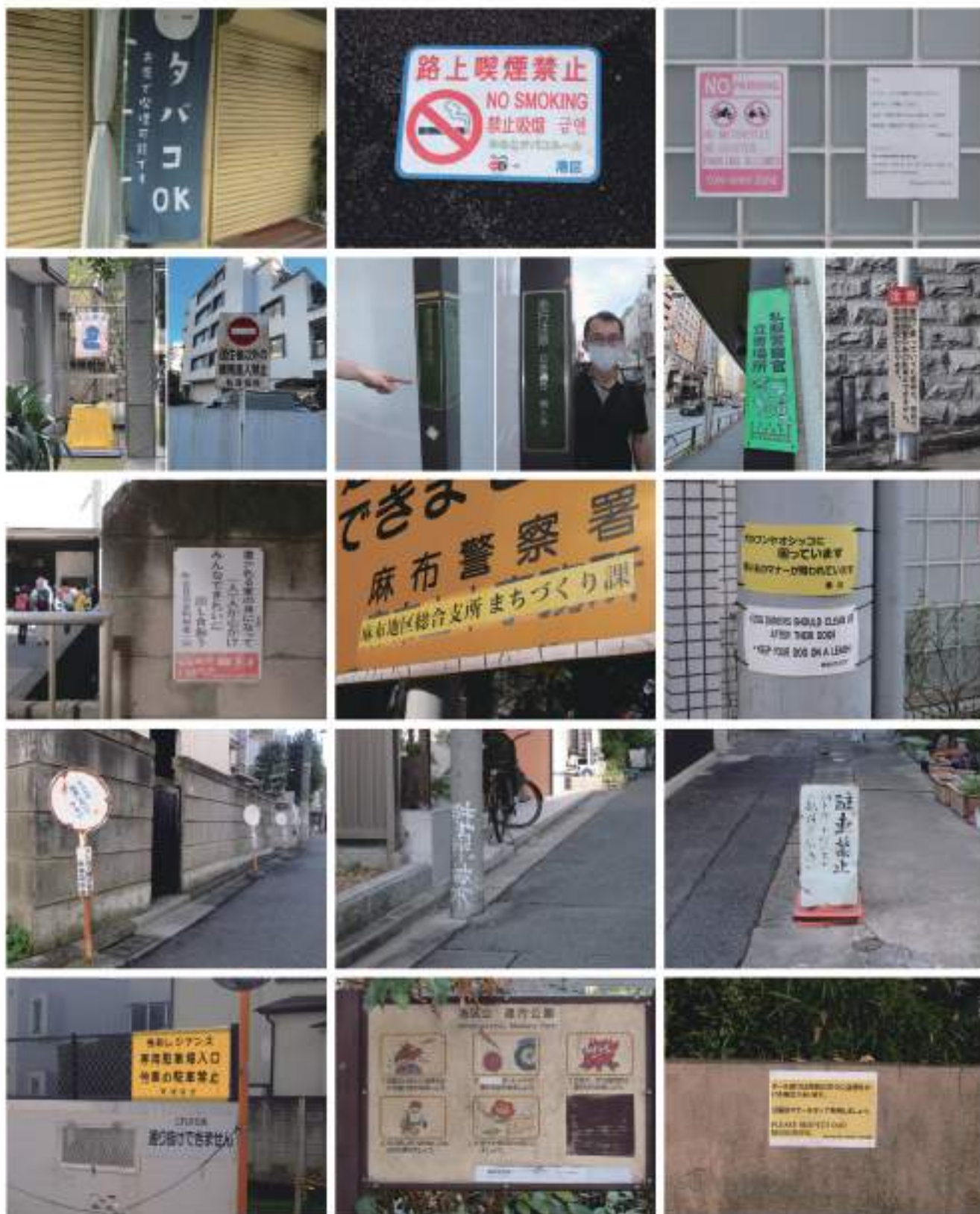


0000-0001-9300-3000

未来に残したい注意書き —昭和から令和まで—

令和 5 年（2023 年）の麻布

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



設置主体は行政から個人、私設自治会まで、国産色豊かな麻布地区では多様な使用言語も確認できます。タバコに関するルールや、公園の遊び方の宣導も見えます。

まちもじフォント今昔

令和5年(2023年)の麻布

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



フォントが見る人に与える印象や同行のフォントは時代によって変わってくるようで、まちもじを見ていると、新しさや懐かしさが感じられます。
霞町や新町などの旧町名がまだ生きているのはまちもじならでは？

麻布十番のまつり

令和5年(2023年)の麻布

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



令和5年(2023年)4月2日:花まつり お稚児さんパレードが久しぶりに行われました。



令和5年(2023年)8月26日・27日:麻布十番納涼まつり 麻布地区総合支所も出店、「麻布近ガチャ」も大好評で販売。麻布未来平良助のメンバーも購入しました(六本木交差点のロゴ、あざぶっ、まみちゃん、豊田幸のかかしなど)。



令和5年(2023年)8月:麻布十番納涼まつり(上下とも)



花まつり

可愛いお稚児さんが様々な衣装を付けて麻布十番大通りをパレードします。パティオ十番に作られた花畑にはお花畑が飾られ、麻布広敷の皆様と共に誕生祭に甘き夜を過ごす催し会の開催が行われます。

麻布十番納涼まつり

今や「麻布十番」といえば「納涼まつり」といわれるほどの麻布十番で一番のビッグイベント。日本各地の特産品や食品が出品されるおらがく白飯、夜店、人気コメディアン陣による納涼音楽、お嬢子(おはやし)、お子さんにも楽しんでもらえる「こどもふれあい広場」パティオ十番に設置される「ステージID-BANG」など盛りだくさんのプログラムです。

令和5年(2023年)は、8月26日(土)・27日(日)の2日間、納涼まつりが開催されました。2019年以來4年ぶりの開催とあって、連日観客約35万の盛況にもがかわらず、持ちこたえたお客さまが多数来場。コロナ前に匹敵するほどの来場者数で、会場は熱気に包まれました。

平成21年(2009年)8月:麻布十番納涼まつり(上下とも) 上からの写真は、平成21年の一番盛んでいた頃のものです。今年もはびこり様々な人が集ってまたと盛りました。

麻布で踊り、麻布でみこし

令和5年(2023年)の麻布

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



令和5年(2023年)9月：麻布上野町盆踊り
麻布上野町会の氷川神社例大祭では、永平寺東京別院 長谷寺にて、盆踊りが開催されました。



令和5年(2023年)8月：六本木ヒルズ盆踊り 2023(上下とも)
4年振りに六本木ヒルズアリーナで開催された盆踊り大会には福島県浪江町からの方々はじめ大勢の方が4年分の楽しさを堪能させていました。



令和5年(2023年)9月：麻布西町祭礼での盆踊り
高速道路下で行われた盆踊り大会は都会ならではの！



令和5年(2023年)9月：六本木天祖神社(福土神明宮) 大祭
田辺町会の六本木町、三河辻町、村木町、徳土町の庄子の皆さまによって、宮神輿の巡行が2年に一度盛大に行われています。

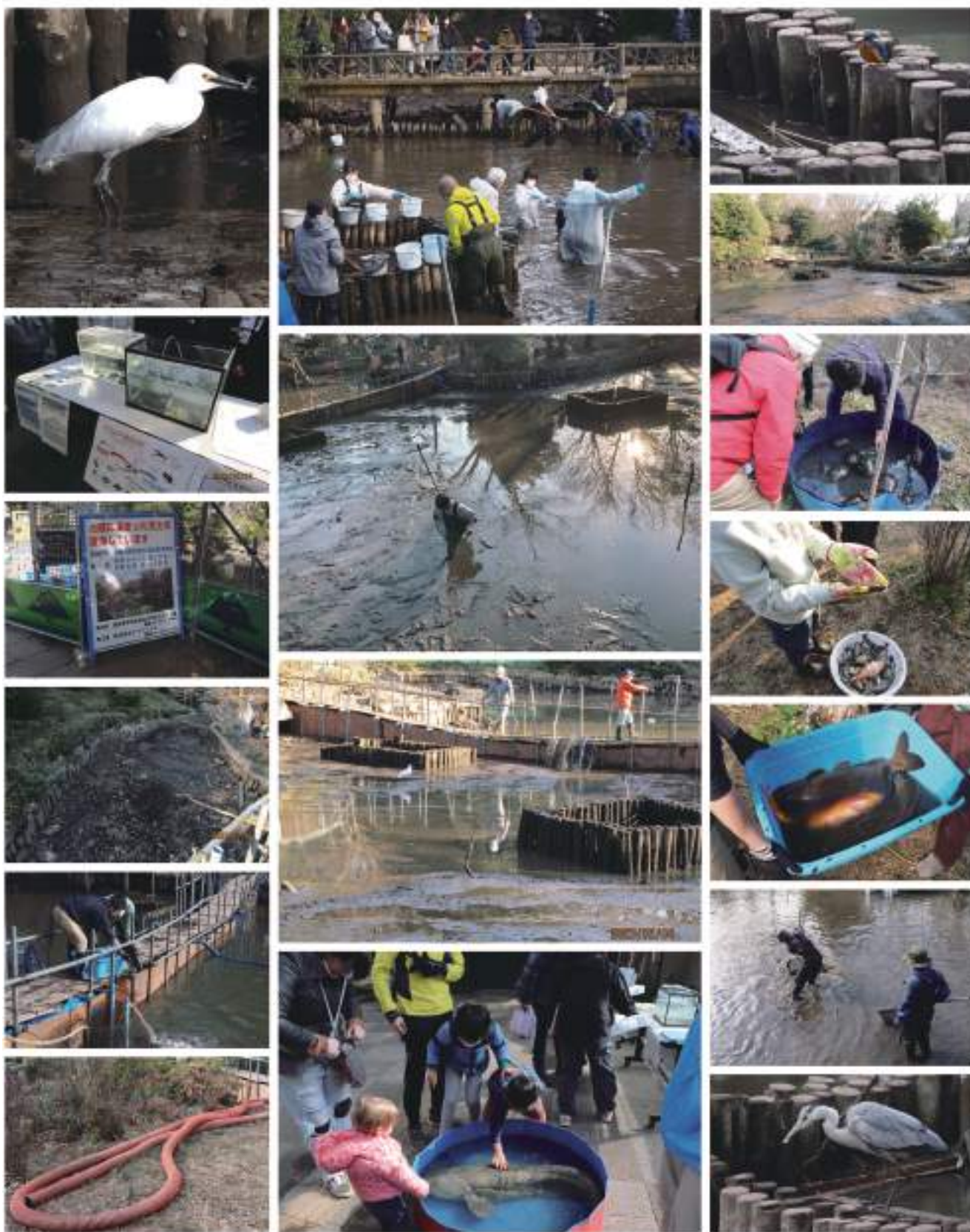


令和5年(2023年)9月：六本木朝日神社 例大祭
六本木朝日神社の創建の日を記念して9月22日に行われる例大祭では、こども神輿太鼓山車巡行が合わせて開催されています。

有栖川宮記念公園の生物採取・調査

令和 5 年（2023 年）の麻布

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



© 2023 有栖川宮記念公園

ちょこっと立ち寄りカフェ×麻布未来写真館

ありすいききプラザ：令和5年（2023年）6月8日開催

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



地域サロン〜ちょこっと立ち寄りカフェ〜

麻布地区総合会館では、高齢の方が、住み慣れた地域で孤立することなく、安心して自分らしくいきいきと生活できるよう気軽に集い学べる場を提供するとともに、地域におけるボランティアを養成し、地域住民が互いに支え合う仕組みづくりを支援することを目的として「地域サロン〜ちょこっと立ち寄りカフェ」を実施しています。

今度のちょこっと立ち寄りカフェでもご参加の方から、昔の麻布の風景についての貴重なエピソードをお聞かせ頂きました。現在、頂いたエピソードを元に、両市と地域の関係のパネル制作に向け、調査や資料収集中です。情報をお持ちの方がおられましたらご連絡いただけると幸いです。また、スタッフの一人から、麻布市（旧豊島区）にあった洋館（旧豊島の古い写真（空襲で消失する前の最後の写真と焼け残った一部分の写真）をご提供いただきました。皆さんで写真を見ながら昔の話題で盛り上がりました。改めて感謝申し上げます。

「ちょこっと立ち寄りカフェ」は、令和5年（2023年）3月現在、麻布地区の4か所のいきいきプラザ（飯倉いきいきプラザ・ありすいききプラザ・西麻布いきいきプラザ・南麻布いきいきプラザ）で、それぞれ月1回開催しています（2月と8月は休み）。

（麻布地区総合会館）

区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会でのこれまでの活動②

Ⅱ 分科会メンバー作成パネルの紹介



まち歩き（撮影）にあたってのルート確認は毎回の決まりごと



「ちょこっと立ち寄りカフェ」との連携事業は毎年の恒例行事



講師の達川さんとともにパネル作成に向けたワーキング



これまでの15年間で延べ50回以上実施したまち歩き（撮影）



今も昔も変わらず何度も繰り返し実施してきたワーキング



メンバーと事務局で展示作業を行った区役所ロビーでのパネル展

Ⅲ これまでの活動を振り返って

メンバーのことば

令和5年度（2023年度）の分科会活動の終わりに際し、各メンバーが、これまでの活動やそれぞれの想いを、「写真」と「ことば」で振り返りました。

座長 近藤 敏康

コロナ禍がようやく落ち着き始めた本年度は、久しぶりにリアルな活動が各所で復活、麻布未来写真館の写真の中にも街の賑わいを感じるものが復活してまいりました。また、旅行者、住民含め街に外国人も戻り、古くから大使館も多く国際化が根付いている麻布地区の日常が戻りつつある姿も写真に記録する事ができました。一方で、近年深刻化している地球温暖化問題、外来生物問題、国際紛争などが、さまざまな人びとに影響を与えていることを現実的に麻布でも感じる事も増えて参りました。麻布未来写真館の目指しているものの一つとして、今の麻布を写真パネルの形で記録し、未来の麻布の人々に伝えるという観点から将来振り返ると、本年度は大きな変化点になったのではないかと感じております。今後とも麻布未来写真館の活動に対してご支援ご協力頂けますと幸いです。



Ⅲ
これまでの活動を振り返って

追伸：麻布未来写真館のスタート時より長年ご指導、ご支援頂いておりました達川清先生が、病気によりお亡くなりになりました。達川先生は、学生時代からファッション写真家としてご活躍され、その後アーティスト写真家としても数々の作品を作ってこられた方である一方、気さくでとてもお優しく、おしゃれでセンス溢れる才能の持ち主でいつも絶妙な距離感を保ちつつ私達の麻布未来写真館活動に寄り添って下さいました。感謝とともに、あたためてご冥福をお祈り申し上げます。



東京画 Describing Tokyo Scapes by 100 Photographers
- 私たちの居場所である東京、
その価値とそこに居る私たちの存在をあぶり出す写真の力。
<http://tokyo-ga.org/photographers/tatsukawakiyoshi/>





副座長 宮崎 則行

新型コロナウイルス感染症が5類に移行して、お祭りや各種行事も4年ぶりと言われながらも徐々にコロナ禍前に戻ってきたワクワクした年となりました。

昨年11月には麻布台の旧郵政省跡地を含めた広大な地区に日本一高いビルとして高さ約330mの麻布台ヒルズ「森」Pタワーが開場しました。

すぐ側には65年前に開業した東京のシンボル「東京タワー」が立っていますが、東京タワーの高さは333mなので、東京タワーに敬意を表してか(?)3mだけ低くなっていることが、私には謙虚さを感じ親しみを感じました。

今回日本一となった「森」Pタワーですが4年後には大手町に建ち上がるビルに日本一の座を譲ることになっており、都内各地でビルの建築ラッシュが続いています。

港区麻布地区では今年の10月に西麻布四丁目に地上36階建の介護付き有料老人ホームが開業予定で、すでに建物は全体像を現しており秋の入居を待つばかりとなっています。

そして六本木交差点周辺では、神社仏閣を取り込んでの再開発事業はじめ、学校を取り込んでの再開発事業や歴史有る劇場の閉館も決まっており、これからも麻布の街が日々変化していくのを目の当たりにして行くことと思います。

その変化を記憶として残すために、これからも麻布の街を楽しみながら街スナップを続けていけたらと思っています。

Ⅲ これまでの活動を振り返って



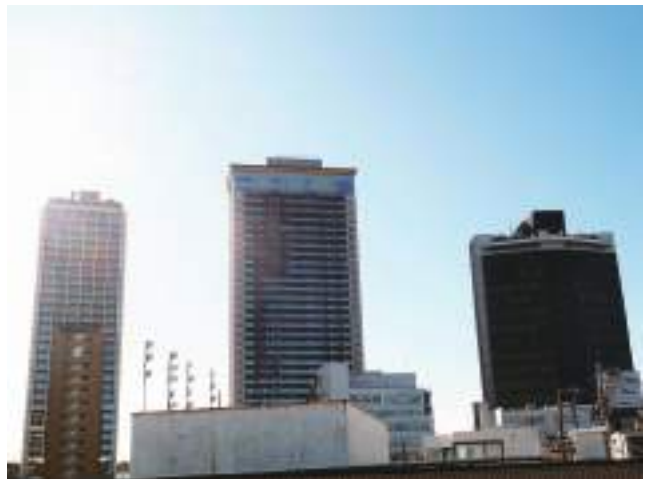
麻布十番での花まつり



六本木ヒルズでの盆おどり



森JPタワーと桜



中央のマンションが介護付き有料老人ホーム



メンバー 石井 諒太

初めての分科会の集まりで、今まで見たことのない帽子のスタイルのモードなおじいちゃんがいた。以前からプロの写真家がアドバイザーとして入っていることは聞いていた。その写真家として参加している達川さんが、そのイケてるおじいちゃんだった。それ以来、2022年から参加しているこの写真館の活動には、いつも達川さんがいた。常にニコニコしていて気さくな方だ。達川さんがいるだけでこちらが元気になる。いつ思い出しても笑顔の顔しか思い出すことができない。

写真館の活動のなかで、達川さんは特に写真についてうるさく言うことはなく、我々が好きに撮ることを大事にしていた。特に指示は無いのだが、私たちが感じたように写真を残してストーリーを残していく活動に、いいねとお墨付きを与えてくれた。明るく笑顔で佇んでいる達川さんが、大きな柱だったように思う。

今はもう達川さんの声が実際に聞こえることはなく、想像するしかないのだが、これからも好きなように感じたままに写真を撮っていくことにする。



輝く麻布台ヒルズとAirDropに感動した夜

Ⅲ
これまでの活動を振り返って



異なる英文フォントに気が付く程にまちもじに注目した一年でした



メンバー 椿由美子

新型コロナウイルスが感染症法上 5 類に移行されてから、この 2 月で 9 か月がたちました。課題は残されているものの、日々の暮らしや地域、社会に日常が戻ってきたことを実感するこのごろ。麻布未来写真館での活動をふり返ると、あっという間に 1 年が過ぎていったように感じられます。

令和 5 年 6 月、ありすいききプラザで開催された地域サロン「ちょこっと立ち寄りカフェ」との連携イベントに参加した折には、和やかな雰囲気の中、地元のご年配の方々と交流。なつかしい思い出や麻布の歴史の再発見につながるような話題など、貴重なお話をお聞かせいただきました。

同じく 6 月に行われたまち歩きでは、南麻布にある天真寺の青々とした木々や、山門脇の水鉢からすくと伸びた蓮の立ち葉の涼し気な姿、本村小学校近くの露地や一の橋公園で出会ったアジサイの可憐な姿が思い起こされます。

10 月には、東洋英和女学院中学部・高等部の文化祭「楓祭」にご招待いただき、キャンパスの門をくぐりました。写真部をはじめ文芸部、ワンダーフォーゲル部、天文部、「一杯のコーヒーから始める S D G s」と題したコーヒープロジェクトの展示など、有意義な活動の数々にふれ、希望と元気をいただきました。

そして 11 月 24 日には、ついに麻布台ヒルズが開業。再開発工事が始まる前の我善坊谷をたびたび訪れ、そこにある風景を撮り続けてきた麻布未来写真館の一メンバーとして、感慨深い気持ちになりました。

長年にわたり、麻布未来写真館で講師をつとめてこられた写真家の達川清先生が令和 6 年の 1 月に他界されたことは、心を大きく揺さぶられるような出来事でした。いつもお洒落で心あたたく、だれにでも気さくに接してくださる達川先生は麻布未来写真館の太陽のような存在でした。

達川先生の笑顔を胸に、これからも麻布未来写真館の活動を続けてゆきたい、そのように願っています。



令和 5 年（2023 年）11 月 30 日：聳え立つ麻布台ヒルズ森 JP タワー。写真左下は外務省外交史料館本館の建物。



平成 29 年（2017 年）4 月 2 日：外苑東通りを挟んで左手、現在、麻布台ヒルズ森 JP タワーが建っている敷地には、麻布郵便局が設置されていた日本郵政グループ飯倉ビルがあった。



平成 29 年（2017 年）4 月 2 日：外務省外交史料館本館（左）と日本郵政グループ飯倉ビル（右）。



メンバー 及川 廣子

コロナ過の対応も変わったとは言え、まだまだ安心はできないが、なぜか行く先々はどこも人・人・人気がつけば自分もその中に紛れている。振り返ると今年、活動は控えめの1年でした。

しかし、優しいメンバーのお陰で数えるほどの写真撮影にも参加できたことが嬉しかったです。

以前、麻布台ヒルズ建設中に見上げて撮影したが、ついに完成した麻布台ヒルズオープンの令和5年11月24日（金）午後から出かけました。

バスを降り、堂々の麻布台ヒルズを見上げました。お洒落な歩道の石畳みに感激しながら見知らぬ人の背中を見ながら歩き、あちこち見学小一時間。やがて庭に出るとイベントで盛り上がっていました。夕闇の中、白くふわふわした正体不明の後を追ったりと、人込みに疲れ日比谷駅方面に向かう足元に白い花が咲いていた。スマホに納め、麻布台ヒルズを後にしました。

撮影は上手くなれませんが楽しい。優しいメンバーがいるから。



Ⅲ

これまでの活動を振り返って





メンバー 八巻 綾子

自由国民社「現代用語の基礎知識」選 2023 年ユーキャン新語・流行語大賞のトップテンに「観る将」が選出されました。藤井聡太八冠の活躍などで将棋への注目が集まり、「自分では将棋を指さず、専ら試合観戦を楽しむ」というファンが増えたとのこと。

私の写真に対する向き合い方にも類似のものがありません。古い風景写真を観るのが大好きで、写真が撮影されたのと同年代の地図と照らし合わせながら、その場所の歴史に思いをはせていると、時間がたつのも忘れて幸福感に包まれます。一方で、自分で撮影してもなかなか上手に撮れません。観光地の素晴らしい風景も「自分でヘタな写真を撮るよりプロが撮影した写真集を買おう」などと思ってしまうテイタラクでした。

そんな私が麻布未来写真館のメンバーとなり、「観るだけ」から「撮る」にもチャレンジしてはや 2 年。ひたすら歩き、シャッターを押し、画像を見てはダメ出しと反省を繰り返す毎日です。そうこうしている間にも、再開発計画が次々に公表され、味わいのある細い路地が消えて駐車場が広がり、その奥にピカピカの高層ビルが建ち並んでゆきます。撮影技術もセンスも発展途上ですが、麻布に残る古き良き懐かしきもののカケラを大切に拾い上げてゆければと考えています。

写真右(2点とも):我善坊谷も麻布台ヒルズに姿を変え、「細い路地に小住宅が建ち並ぶ」昔ながらの風景が残る場所はごく僅かになりました。

写真下:周囲に高層ビルが増えてゆきます。今は青空が広がる駐車場上空も、近い将来高層ビルになるのでしょうか。

※写真はいずれも、六本木三丁目と七丁目の再開発計画があるエリアで、2019年から2023年にかけて撮影





副座長 入江 誠

消えゆく時計台

絶え間なく時を刻んで来た街中の時計、また1つ、2つとなくなってしまった。

以前は時計を持っていなくても何処かしら目を向ければ、時刻の確認が出来ました。良いことなのか、悪いことなのか時代は過ぎ去って今の時代は時計を捜すのも難しい。

私が好きだった時計台のある建物2棟、麻布郵便局、かんぽサービスセンターです。

「旧麻布郵便局」は逓信省貯金局として昭和5年(1930年)竣工、鉄筋コンクリート造、柱の装飾はアール・デコ風が特徴的です。一方、「かんぽ生命保険 東京サービスセンター」は昭和4年(1929年)竣工です。いつまでも目にとどめておきたいと思っています。



Ⅲ

これまでの活動を振り返って

達川先生に想う。

昨年、2023年12月16日まち歩きでの達川先生の笑顔を思い浮かべ、スナップを載せました。

いつも列の最後部で、ご一緒した時には多くのアドバイスを頂き、心から感謝申し上げます。

長い間、本当にありがとうございました。

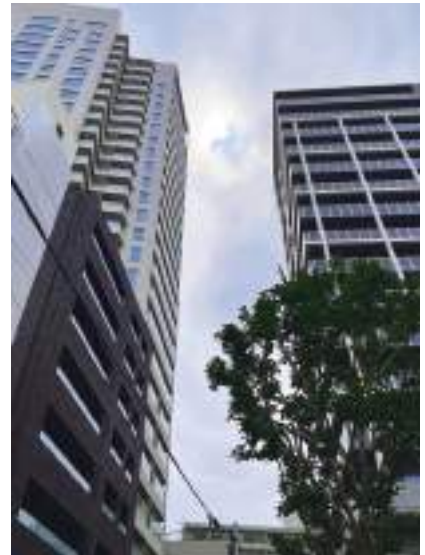
達川清先生のご冥福をお祈り致します。





メンバー 荒澤 經子

2023年6月10日、
土曜日の朝9時45分、
西麻布四丁目の細い路地で
不思議な気持ちで空を見あげる。
梅雨の時期の曇り空に晴れの兆しが私の心を華やかせました。



Ⅲ

これまでの活動を振り返って

メンバー 水野 禮子

麻布のまちに、また一つ、日本一の建物「麻布台ヒルズ」が2023年11月に開業し、人気スポットで見学・散歩の方々がぞろぞろ、クリスマスには整理券まで配られ、新名所になりました。
まわりにもまだ大きなビルが建設中です。麻布台一帯の変貌にはおどろきです。





メンバー 吉川一郎

今年度の活動では、常にステレオ写真を撮影しています。後処理には時間と労力が必要ですが、被写体の存在感が満載で、立体視が可能です。撮影距離と移動距離の大まかな感覚も得られるようになりました。感覚的にステレオ写真の適応が身についてきました。今後もステレオ写真を撮影し続ける予定です。今年度の終わりには、撮影した写真の寸法を求めることができるようになるでしょう。右の写真は庚申塔のもので、縦 50cm、横 33cm と寸法を求めることができました（カメラ Z7 での撮影条件が示されています）。

撮影距離「D」は下の測定器で簡単に測定できます。

レンズの焦点距離「F- 焦点距離」はカメラの画像データを見ると表示されています。この場合「F」は焦点距離 36 mm で撮影されています。

例えば仏像の写真では大きさは不明だが、仏像写真の寸法が求められれば、仏像の大小は簡単に得られるようになります。

デジタル写真はいろいろなデータがあり、非常に便利になっています。しかし、被写体-カメラ間距離はカメラからは得られません。別の装置で測定する必要があります。

下の写真は距離測定器です。ボタン一つで瞬時に距離測定が可能です。



表1

計算式	$0.004351 \times P \times D \div F$
P(測定ピクセル)	2306
D(距離)	1184
F(F値)	36
値(mm)	329.98757511111

・望遠鏡・光学機器・距離計・レンジファインダー



欠点は

1. 距離計ではピタゴラスの定理で寸法測定もできますが、写真の測定ピクセルをいちいち求める面倒があります。
2. 距離計を購入 (1.5 万円) する必要があります。

来年度の麻布未来写真館と私

来年度は様変わりしそうな予感がします。

今の私の職場も様変わってしまいました。

来年度は麻布未来写真館の組織も様変わりしそうです。

何が変わろうと自分をしっかり見つめて生きていきます。



メンバー 岡崎 純子

令和5年（2023年）11月24日、麻布台ヒルズ開業。麻布地区にまた新しい街が動き始めました。家から徒歩30分以内で行くことが可能なこともあり、すでにお散歩コースになっています。

この一年間も麻布・六本木の街の様子を数多く撮影しました。撮影時には、区長様をはじめ多くの皆様とお話する機会を得ることが出来ました。7月、19回目をむかえた朝日神社のほおずき市では、開催されている宮崎県日之影町の関東日之影町町人会長様に偶然お会いし、貴重なお話を伺えました。

ここ数年、メンバーのことばとともに桜の写真を載せていただいております。今回の桜は、国立新美術館を背景にした一枚です。

「麻布未来写真館」を創設時からご指導いただきました達川清先生に深く感謝いたし、先生から学んだことを少しでもこれからの活動に活かしていけたらと思っております。

Ⅲ

これまでの活動を振り返って



麻布台ヒルズ（2023年11月）



朝日神社 ほおずき市（2023年7月）



国立新美術館と桜（2023年4月）



メンバー 佐藤 正子

12月16日のまち歩きからこの活動に参加しています。20年以上にわたり麻布地域で仕事をしてきましたが、8年前には麻布の住民としてこの地域に根ざしています。地域の活動に参加したいと思っていたところ、令和5年度の麻布総合地所の地域サポーター養成講座・ミナヨクの募集を見つけ、8期生として受講しました。講座では、自身の企画プロジェクト「クリーン&クвест麻布冒険物語」を発表しました。このプロジェクトでは、主に麻布地区の神社仏閣を巡り、清掃活動を行いながら歴史や文化をクエスト体験するというものです。

そのプレゼンテーションの日に、以前から興味があった麻布未来写真館の活動が予定されていました。午後の発表に不安を抱えながらも参加し、麻布図書館前に待ち受ける13名を超える参加者と一緒に世代を超えた方々と話をしながら、街の風景を撮影しました。昔話や趣味の異なる話を聞きながら、自分の気になる対象を撮影し、その撮影を通して、建物のディテールや意識していなかったものに気づくことができました。撮影後に写真を振り返り、過去の写真と比較することで、歴史の変遷を感じることができました。これらの活動を通じて、地域の未来を担う次世代につなげる素晴らしい活動だと感じています。

地域サポーター養成講座から始まり、「クリーン&クвест麻布冒険物語」の立ち上げ、そして、この麻布未来写真館のまち歩き活動に参加することで、麻布地域に根付いた活動に関与できたことを誇りに思います。自身のプロジェクトと連動して、エリアの名碑の写真の撮影も続けていきたいと思います。地域の活動に参加することが自分自身や地域にとってどれだけ意義があるかを再確認し、今後も積極的に参加し、地域の発展に貢献していきたいと思います。



写真(左)：麻布図書館／写真(右)：麻布地区総合地所
12月16日麻布未来写真館のまち歩き活動。麻布図書館からスタート。
ゴールは麻布地区総合支所へ。
何気なく利用していた麻布図書館の建物のデザインが素敵だったことを再認識します。



写真(左)：狸穴坂(下り起点)／写真(右)：狸穴坂(上り起点)
麻布は坂が多いことで有名だったこと。
起点と終点に案内板が立っており、わかりやすいという気づき。



写真(左)：狸穴坂の坂上で交わる外苑東通り。飯倉の交差点が通りの起点。
写真(右)：麻布台ヒルズと霊友会の向こうには東京タワーが見えて位置関係が明確に。



写真(左右)：六本木や飯倉に地下道が多いのに気づきます。



ミナヨク8期プロジェクト

「クリーン&クвест麻布冒険物語」Meeting@日蓮宗日通山妙善寺
第1回のMeetingは日蓮宗日通山妙善寺で開催されました。妙善寺は「囲碁寺」としても知られ、名人のお墓があることで知られています。当山の二十三世である的場慶雅住職から、寺院と墓所の案内がありました。その後、プロジェクトの意見交換が行われ、最後には住職の法話により、このプロジェクトに取り組む上でも新たな視点を提供してくれました。なお、この寺院の敷地の一部が再開発対象となっており、開発後は庭園として一般に開放される予定です。



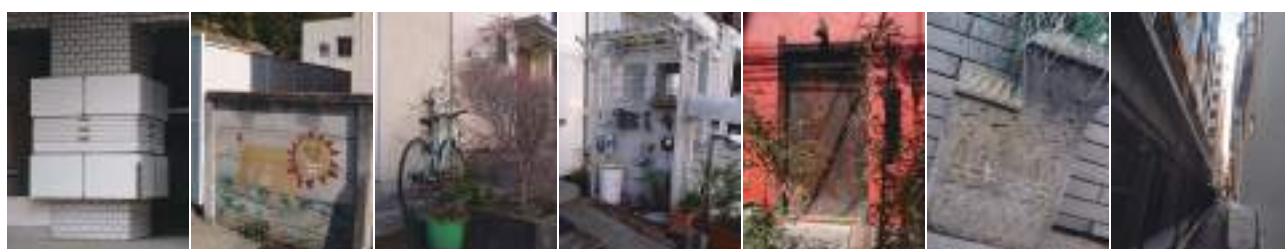
写真(左上)：妙善寺入口
写真(右上)：妙善寺本殿
写真(左下)：妙善寺内でのMeeting(撮影：吉川一郎氏)
写真(右下)：妙善寺墓所のご案内(撮影：吉川一郎氏)



麻布地区を「みんな」で「よく」するコミュニティデザイン活動のサイトにびます ↑↑↑↑



「あのドア、絶対意図してると思いませんか。」麻布未来写真館参加初回の街歩きの日、誰が誰だかわからないまま不躰にも近くを歩いていた方に話しかけたのに、「いいところ見てるね。」と返ってきた優しい言葉。調子に乗って「そういうのをこの写真館の活動で残していきたいくて!」という私に、少しずつご自分のこれまでのお仕事のことを話して下さって、、、程なく私が子どもの頃憧れていた時代のまさにその世界の真っ只中にいた方だとわかり、胸の高まりを感じたのを覚えています。その後、何度かご一緒させていただいた街歩きでは「街の何気ない意匠から人々の想いを感じ取るのは素敵なことだよ」と、力を与えてもらった感じがしていました。今思うと、これ以上深く突っ込むと自分の不勉強さが露呈してしまうのが怖くて話さずじまいになってしまったいろいろが後悔でなりません。





メンバー 野村知義

「麻布未来写真館」の活動は、港区麻布地域の将来の姿が想像できる大切な事業と言える。

住み慣れた地域であるが写真撮影で地域のまち歩きをしなければ何も知らずに時が過ぎて行く。

麻布地区総合支所協働推進課、分科会事務局、メンバーの皆様のガイドで年間数回の明確な目的を持つまち歩きが楽しみである。

2023年11月、日本一高い超高層ビル「麻布台ヒルズ」がほぼ完成し早速内覧の機会をえた。

開発区域の面積約8.1ha、東京ドーム1.4個分の広大な土地。

麻布台ヒルズJPタワーの高さは約330m、階数64階。32階へは直通のエレベーターで行くことができる。麻布台ヒルズの完成後、麻布台ヒルズー飯倉交差点ー東麻布1丁目ー赤羽橋（大江戸線赤羽橋駅）を結ぶ歩道を行き交う海外、国内の人々が大変多くなった。東麻布地域の過去の賑わいが期待できそうな気がする。桜田通り（国道1号線）沿線の飲食店、物販店の繁栄がもたらせるように町会ははじめ地域としての盛り上げ対策が必要であると強く感じる。

写真1は、麻布台ヒルズの建設中の様子。太陽光は北方向からのぼり反射して直視ができない。

写真2は、完成前の様子。超高層ビル特有の霧に包まれた神秘的な様子である。

写真3は完成後、麻布台ヒルズからの眼下に見える飯倉交差点、東京タワーの先に見える東京湾の様子。

写真4は完成3か月後の深夜の様子。照明がさらに威容を示しているように感じる。

大胆な地域の再開発で昔の面影を留めなくなりつつあるので隅々まで記録にとどめ、後世に残し伝えることの大切さが再認識される。



写真3 東京タワー・麻布台ヒルズ32階からの眺望
撮影：2023年11月22日（水）

Ⅲ
これまでの活動を振り返って

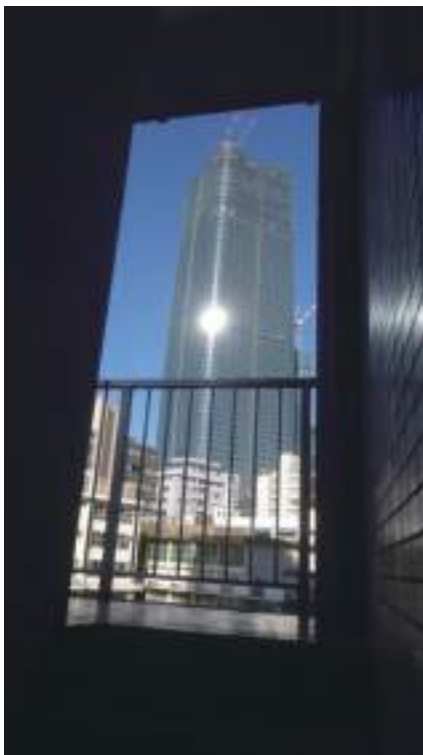


写真1 麻布台ヒルズ・太陽光の反射
撮影：2022年12月16日（土）



写真2 麻布台ヒルズ・霧に包まれる
撮影：2023年10月9日（月）



写真4 麻布台ヒルズ・深夜そびえ立つ
撮影：2024年2月9日（金）



区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会でのこれまでの活動③

Ⅲ

これまでの活動を振り返って



まち歩き（撮影）での集合写真撮影：事業開始当初の平成21年度（上段左）、平成23年度（上段右）、令和元年度（下段3枚とも）

講師 達川 清

我善坊、郵便局跡に完成した、麻布台ヒルズのオープンでまたまた大きく変貌しましたね！！

達川が東京に来た 1960 年代末の頃には、六本木一丁目（のちのアークヒルズや泉ガーデン）の開発が始まって大きな社会問題になっていた。

写真の仕事が始まり、アメリカ大使館へ何度も行くすがら変貌を見ていました。そして、六本木スタジオに連日行くようになり、あっという間に六本木ヒルズが完成していきました！！

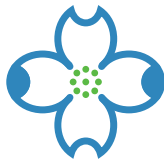
麻布未来写真館が始まってもう 15 年！？になり、メンバーも熱心であり変わらず参加していて、嬉しい限りです！！

これからも麻布地区のより良い変貌を観ていきます！！



（撮影：2023年12月16日）
達川さんの生前、2024年1月13日にお預かりしたメッセージを掲載しています。

区の木



ハナミズキ

区の花



アジサイ



バラ



港区のマークは、昭和 24 年 7 月 30 日に制定しました。

旧芝・麻布・赤坂の 3 区を一丸とし、その象徴として港区の頭文字である「み」を力強く、図案化したものです。

港区平和都市宣言

かけがえのない美しい地球を守り、世界の恒久平和を願う人びとの心は一つであり、いつまでも変わることはありません。

私たちも真の平和を望みながら、文化や伝統を守り、生きがいに満ちたまちづくりに努めています。

このふれあいのある郷土、美しい大地をこれから生まれ育つ子どもたちに伝えることは私たちの務めです。

私たちは、我が国が『非核三原則』を堅持することを求めるとともに、ここに広く核兵器の廃絶を訴え、心から平和の願いをこめて港区が平和都市であることを宣言します。

昭和 6 0 年 8 月 1 5 日

港 区

刊行物発行番号 2023327-1435

区民参画組織 麻布を語る会 麻布未来写真館分科会 令和 5 年度（2023 年度）活動報告

令和 6 年（2024 年）3 月 発行

編集・発行 港区麻布地区総合支所協働推進課

〒106-8515 東京都港区六本木 5 丁目 16 番 45 号

電話 03-5114-8812 ファックス 03-3583-3782 <https://www.city.minato.tokyo.jp/>

©禁無断転載複製



麻布未来写真館

参加メンバー随時募集！



麻布未来写真館では、メンバーを募集しています。皆さまもぜひ参加してみませんか？会議など活動の見学が可能です。お気軽に問い合わせください。

古い写真・資料を探しています



明治～平成 10 年代頃の写真・資料等を募集しています。麻布地区の建物や風景、お祭りなどの懐かしい写真がありましたら、下記問合せまでお寄せください。

地域 SNS アプリ「PIAZZA」



身近なイベントや日常の暮らしに関する情報交換などを通じて、地域密着型のコミュニケーションを促進するためのアプリ「PIAZZA」に、麻布未来写真館の活動を投稿しています。ぜひご覧ください。

「麻布未来写真館」の情報はこちら

港区ホームページ

<https://www.city.minato.tokyo.jp/>

 麻布未来写真館

検索



問合せ

03-5114-8812

港区麻布地区総合支所協働推進課地区政策担当